農大だより

令和２年８月号　No. 88
編集発行：愛知県立農業大学校

県民公開講座
「親子で学ぶあいちの農業」を開催！

８月12日（水）、19日（水）に小学生親子を対象にした夏野菜収穫体験と収穫した野菜を料理する体験型の講座「親子で学ぶあいちの農業」を開催しました。新型コロナウイルスの感染防止対策と熱中症に配慮し、猛暑の中、それぞれ親子２組５名、親子４組９名が参加しました。

最初に「知ってほしい愛知の農業」と題した講義で、クイズ形式で楽しみながら「あいちの農業」の特色を学びました。

収穫体験の前に講座担当が、写真と絵を使って夏野菜の育て方のポイントを説明しました。

児童たちが楽しみにしていた収穫体験は、本校の雇用創出農業研修生（就農を目指す社会人経験者）の援助を受けながら、カンカン照りのほ場にもかかわらず元気にキュウリ、トマト、ミニトマト、ピーマン、ナスの樹にハサミを入れて収穫を行いました。みんなよりも、大きいものを選ぼうと、一心に見つめ収穫しました。

［研修生に教えてもらっての収穫体験］

収穫後は、岡崎市で地元食材を使った料理を提供する wagamamahouse の折田料理長を講師にお招きして、穫れたての野菜を使って、「なすとピーマンのシラス炒め」「ゆで鶏のごまソースがけ」「チキンだしのスープ」の３品を親子で協力して料理しました。新型コロナウイルス感染防止対策から、その場で食べず、事前に準備していただいた容器に入れ持ち帰っていただきました。

［集中してきゅうりの細切りに挑戦］

講座終了時に行ったアンケートの結果、父母からは「親切に収穫方法、見分け方を教えていただき良かった。」「親子で料理体験ができて良かった。」、児童からは、「自分で作った夏野菜料理がおいしかった。嫌いな野菜も食べることができた。」等の感想が寄せられ、農業の理解促進、食育の推進、農大のＰＲに繋がる講座となりました。

（就農支援科　河野　真砂子）

校　外　学　習
「人とのつながりを重視した花き経営で活路を見いだす」（鉢物・緑花木専攻）

鉢物・緑花木専攻の２年生（８名）が、７月８日（水）に校外学習として、田原市の鉢物農家を視察しました。

最初に訪問した「株式会社　さぶろ平」は、花苗を中心に野菜苗、切花を生産する大規模経営体で、従事者は40名、出荷量は

年間約215万株です。代表者の石原孝幸氏から、生産施設や栽培方法、販売戦略について話していただきました。1,200坪の大型ハウスでは、低コスト化のための独自の工夫が随所になされていました。加温は鉢を置くベンチと一体化した温湯管で行い、またハウス内の小ブロックごとに天井が上下して加温空間を調整することで、必要最小限のコストとしていました。トレーを利用した少量培地による切花栽培では、茎が硬く日持ちする花が生産できるとのことでした。

［さぶろ平・石原氏の話を聞く専攻生］

続いて訪問した玉越裕介氏は､アジサイ、ポットマム、シクラメンの鉢花と花苗を栽培する家族経営で、年間８万５千株を出荷しています。田原では多くの鉢花農家は２品目の生産ですが、玉越氏は３品目プラス花苗を生産することで経営安定を図っており、「周年生産で仕事を生み出す工夫」を常に意識しているとのことでした。

学生は、普段なかなか接する機会の無い先進農業経営者の話を真剣に聴き、栽培管理方法等について質問をしていました。今回の視察先はタイプは異なりますが、両者とも多品目生産により周年出荷を行うことで、リスク分散や労力の平準化を図っていました。また、人とのつながりを重視しており、石原氏は顧客の要望に「できない」と言わない、「できることを考える」ことでこれまで数々の課題を解決してきたそうです｡玉越氏は積極的に市場に足を運んで、自分の商品を買ってくれる顧客と直接話をして、要望を聞いていました。

品質が良いことはもちろんのこと、こうした活動を通して顧客の信頼を獲得した結果、現在の出荷は大半を契約で行っているとのことでした。２人の経営姿勢に学生は大変刺激を受けたようで、提出されたレポートでは、栽培とともに販売に関する記述が多く見られました。本専攻でも今回学習した内容を生かして、直売では顧客とのつながりを重視し、顧客の意見を商品開発に反映できるよう努めていきたいと思います。　　（農学科　坂場　功）

先進技術と最新の研究成果を学ぶ（露地野菜専攻、施設野菜専攻）

７月16日（木）に露地野菜専攻と施設野菜専攻の２年生（27名）が、合同校外学習として山元園芸（豊橋市）と愛知県農業総合試験場東三河農業研究所を視察しました。

山元園芸の経営理念は、食味にこだわった高糖度トマトの生産です。生産物はすべてＪＡ豊橋に出荷しています。栽培面積は50ａ、その内25ａは「プロファームＴキューブ温室」という換気で室内制御するのが特徴です。

［Ｔキューブ温室について説明を受ける学生（山元園芸）］

「プロファームＴキューブ温室」は、大仙、トヨタネ及びデンソーの３社で共同開発した高度な環境制御温室です。その特徴は、吸気ファンや側窓の開閉を制御する強制換気システムが必要換気量にあわせた管

理によりハウス内環境を安定させます。

学生は、気流の制御によりハウス内の環境を安定化させる新しい手法に興味を持ったようで、側面に設置された大型ファンやハウス内のトマトの生育状況について活発な意見交換がなされました。

東三河農業研究所では、２班に分かれて、施設野菜と露地野菜に関する試験研究を視察しました。

施設野菜では、夜間冷房や炭酸ガスを利用した青ジソの高生産と、ミニトマトの高品質を目的とした給液管理技術について説明を受けました。新設されたＩＣＴ温室では、トマトの高収量生産システムの開発に本年度から取り組むとのことでした。

［青ジソの試験研究について説明を受ける学生（東三河農業研究所）］

露地野菜では、土壌の排水性を改善する技術の開発やドローンの空撮画像からキャベツを生育診断し、生育状況に合せた施肥量の検討、ブロッコリーの収穫作業の機械化の実証試験等、様々な技術開発の紹介がありました。

［ドローンによる空撮（東三河農業研究所）］

学生は、ＩＣＴ温室での高度な栽培管理技術やほ場内の生育ムラを明確にするドローンによる空撮技術に興味を持ち、熱心に耳を傾けていました。

（農学科　榎本　剛士）

農業後継者育成奨学金の授与式が開催されました

ＪＡあいち中央では、新たな農業の担い手を確保、育成するための取組のひとつとして、「農業後継者育成奨学金」制度を実施しています。この制度は、ＪＡ独自の取組で、組合員の後継者で、将来の就農を目指す者に対し、就学に必要な資金の一部を、奨学金として支給するものです。昭和59年から始まり、これまでに73名が授与している歴史のあるものです。

本年度は、ＪＡ管内の10名の農業後継者から申請があり、うち５名が農大の学生でした。

８月20日（木）にＪＡの生活館で審査会が実施され、慎重に審査された結果、10名全員が受給対象者に選ばれました。

［贈呈式後の農大関係者による記念撮影］

審査会に引き続いて開催された奨学金の贈呈式では、石川克則代表理事組合長の御挨拶に続き、奨学生全員に奨学金の目録が贈呈されました。その後は、来賓あいさつとともにＪＡ経済委員長からの激励の言葉をいただきました。これを受けて、将来、地域をけん引する農業経営者として活躍が

期待される各奨学生から、「ＩＣＴ温室で新しい農業技術を学びたい」「自社ブランドを確立していきたい」など力強い抱負が述べられました。

（校長　堤　公生）

オープンキャンパス2020を開催

７月に引き続き８月１日、22日の土曜日午前10時からオープンキャンパス2020を農大入学に興味のある高校生等やその保護者、高校の教員の方を対象に事前予約制で実施しました。

２日間とも多くの方に参加していただきました。今年度は特に２年生や１年生の参加が多く見られ、早いうちから進路を考えている生徒が多いのだと感じました。

７月の２回は雨の心配をしましたが、８月は一転して暑さ対策が必要となり、順番を替えて、校長挨拶の後にキャンパスツアーを実施し、さらに農業機械庫や生産物流通施設といった建物内部を見学コースに加えました。

［キャンパスツアーで本校施設の概要説明］

その後大講義室に集合して、パワーポイントによる農業大学校の概要説明を行いました。

入学後の生活や授業、行事の説明を聞いて農大の魅力を少しでも感じていただければと思っています。また、専攻の説明は、入試時の希望選択に役立てていただけるのではないでしょうか。

終了後は、入学に関する相談や大学校生活などについての相談を受け付けました。また、参加者のアンケートでは「農業に縁が無い人でも農業を選択できる勉強ができるのはすばらしい。」、「楽しそうな学校で有益な勉強ができる。」、「敷地や設備が充実して濃い体験ができるのではないかと思った。」などの感想があり、農大を進路選択の１つに加えていただけたのではないかと信じております。

（学務科　伊藤　正美）

農業者生涯教育研修
高校生が農業大学校の実習を体験

農業体験実習を通して農業への関心を深めてもらうことを目的に、毎年、高校生を対象に「緑の学園研修」を開催しています。今年も８月に【１日農業体験】を３回実施し、延べ122名が参加しました。

午前に農大の概要説明と校内の見学を行いました。農大のキャンパスは広大（面積約39ha）で、水田、畑、果樹園、畜産施設、立ち並ぶ大小温室、何台ものトラクターに驚いていた様子でした。

［農大の概要説明］

午後は参加者の希望する体験コース（花き、作物・果樹、野菜、畜産）に分かれ、各専攻の学習内容の説明を受けた後、当番で出校している在校生とともに農作物の栽培や収穫調製作業、鶏の集卵・パック詰め

作業、牛の体洗いを体験しました。いずれの回も暑い中の実習でしたが、専攻の指導職員や農大の学生から指導を受けながら、真剣に取り組んでいました。

［牛の体を洗う研修生］

参加した高校生からは、「優しく教えてくれて実習が楽しかった。農大に入学したい。」と感想が聞かれました。この体験研修は12月24日（木）にも開催します。

（就農支援科　柴田　健）

愛知農業次世代リーダー塾始まる

８月３日（月）農業大学校にて令和２年度愛知農業次世代リーダー塾の開講式及び第１回講座を開催しました。受講生は過去最大の21名でした。

［開講式における校長式辞］

開講式の後、第１回講座において、早速自分の経営に関するＳＷＯＴ分析を行いました。この日でＳＷＯＴ分析は完了しませんでしたが、随時メール等により担任の中小企業診断士の指導を仰ぎながら分析を進めて行くこととなりました。

今後は、雇用管理、法人化、財務管理等の講演により、経営管理能力を高めるとともに、各自の経営改善計画を作成し、次なるステージに踏み出していく予定です。

（担い手支援科　杉浦　直樹）

生産高度化研修
トマトに関する試験研究成果と台風対策

７月30日（木）に、生産高度化研修「トマトに関する試験研究成果と台風対策」を本校大講義室にて開催しました。出席者は県内農業者、ＪＡ職員、県・市関係職員併せて66名でした。

コロナ禍、感染防止対策をしっかり取りながら実施しました。

研究発表は、農業総合試験場園芸研究部野菜研究室安永美紗子主任より「トマトの効率的な施肥について」、農業総合試験場東三河農業研究所野菜研究室金子良成主任研究員より「トマトの溶液栽培における試験研究の取り組み」、トヨタネ株式会社施設部牧瀬勝則部長代理より「ハウスの台風対策について」の講演が行われました。

［総合質疑の様子］

その後、農業総合試験場企画普及部広域指導室田中哲司主任専門員を座長に、総合質疑が行われ、最近大きな被害を及ぼして

いる台風対策などの質問が多く出されました。研修会は終始緊張感のある有意義なものであったと思います。

（担い手支援科　福井　敏幸）

専　攻　紹　介

【切花専攻】

切花専攻では、約1,500㎡の温室と300㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ハイビスカスなど、10種類以上の植物を栽培しています。

実習では、種まき、定植、施肥、摘蕾など様々な作業を行い、出来た切花の収穫を毎朝行って週２回（月、金曜日）、市内の花き市場に出荷しています。

毎週水曜日に実施する実習販売では、学生がお客さんに直接、切花を販売することで接客方法やマーケティングについて学べるため、学生にも好評です。

今年度の学生数は25名（１年生14名、２年生11名）で、うち専業農家の子弟は８名（１年生２名、２年生６名）です。

今年は新型コロナウイルスの影響で学校が始まるのが６月からでしたが、１年生は人数が14名と多いこともあり、入学当初から賑やかに実習を行っています。また、１、２年生合同での実習では、１年生が２年生から作業を教わりながら楽しそうに取り組んでいます。

［出荷調整作業中の１、２年生］

今後、１年生は、９月中旬から10月末までの農家派遣実習終了後にキク、バラ、洋花の３部門に分かれ、２年生の秋までプロジェクト学習に取り組みます。テーマは、仕立て方の検討、植物成長調整剤の施用効果の検討など様々ですが、いずれも単なる調査ではなく、収量、品質向上、コスト低減、省力化など農業経営の改善につながる課題を取り上げます。また、２年生の冬には卒業論文としてまとめ、専攻内で発表会を行います。

（農学科　近藤　満治）

【酪農専攻】

酪農専攻は、乳用牛約25頭、肉用牛約30頭、育成牛約30頭の計85頭前後の牛を１年生14名と２年生13名の学生が飼養管理しています。また、約4.5ha のほ場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもありますが、１年生も、２年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようになっていきます。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学業が６月１日スタートと大きく出遅れてしまいましたが、現在その遅れを取り戻すべく、一所懸命実習に励んでいます。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していくため、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちで名付けた牛たちを名前で呼びかけながら愛情いっぱいに飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。

ここ数年、継続して参加してきたホルスタイン共進会ですが、特に今年度は５年に一度の全日本ホルスタイン共進会（全共）も控えていたため、牛の選別、準備から毛刈り、飼養管理、調教までを改良同志会の

酪農家さんの協力を得て、頑張ってきました。しかし、昨年度のＣＳＦによる中止に続き、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。共進会では、ショーコンテストを通して、牛の改良について学ぶばかりでなく、酪農家さんとの交流の場でもあり、現場の声を聞きながら将来について考えるよい機会でもあるだけにとても残念です。

［新規ミルキングパーラーでの搾乳作業］

昨年度は、20数年ぶりにミルキングパーラー及び搾乳システムが更新され、新しい機械で作業効率も上がったことに加え、最新の技術に感動しながら日々の実習で多くを学んでいます。また、今年度は通路床工事とスクレーパーの更新も予定しており、完成すれば、牛床の増加につながるとともに、現在通路で休息する牛たちにもベッドが確保され、より快適で衛生的な環境で飼養することができます。将来的には、搾乳牛の増頭が可能となり、学生にとってより実践的な実習が行えることが期待されます。

（農学科　西村　岳）

農大からのお知らせ

◇新型コロナウイルス感染防止のためのお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、３つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

◇緑の学園（１日農業体験学習）◇

・開催日時
　第４回　12月24日（木）
　午前10時から午後４時30分まで
　（雨天実施）
・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
・定員：30名
・場所：農業大学校
・受講申込書を郵送又はファクシミリで研修部まで送付してください。
　（締切日：12月１日（火））
・詳細は本校ホームページを御覧ください。
・問合せ先：就農支援科（柴田）
　0564-51-1034

◇令和３年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験
・出願期間：令和２年９月29日（火）から
　令和２年10月15日（木）まで

・試 験 日：令和２年10月30日（金）
・合格発表：令和２年11月12日（木）
・試験科目：小論文（800字以内）
　　面接試験
・募集人員：定員100名のうち２／３以内
　　（特別推薦入学者を含む）
・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験
・出願期間：令和２年11月12日（木）から
　　令和２年11月26日（木）まで
・試 験 日：令和２年12月８日（火）
・合格発表：令和２年12月18日（金）
・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
　　面接試験
・募集人員：定員100名のうち推薦入学合
　　格者を除く人数
・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験
・一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他
・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ホームページを御覧ください。
・問合せ先：学務科（近藤）0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和２年９月の生産物実習販売についてお知らせします。
・販売日：９月２日、９日、16日、23日、30日
　　（祝日を除く毎週水曜日です。）
・時　間：午後３時から
・場　所：農業大学校体育館他
※なお、袋入り堆肥は、第２機械庫前で販売します。（毎月第２水曜日）
・問合せ先：農学科（山本）0564-51-1673

校内でCSF（豚熱）防疫対策実施中

農大では、ＣＳＦ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。
○畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
○農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
○関係車両等の消毒の徹底
　　（車両消毒槽、動力噴霧器）
○その他、諸防疫対策を実施